

岩手大学動物実験計画書

岩手大学長 殿

 新規 変更・年度更新

提出年月日

2018年 2月 2日

受付年月日 2018年 2月 2日

受付番号

A201814

研究課題	野生動物肉の食中毒危害性解析研究							
研究目的	ジビエ料理として、捕獲された野生動物の肉が利用される。野生動物肉の食中毒危害性を解析する。							
動物実験責任者名 (選択項目を■)	所属部局・職	農学部・教授						
	フリガナ 氏名	テラジマ ジュン 寺嶋 淳						
	連絡先	TEL:6221 E-mail: terajima@iwate-u.ac.jp						
	教育訓練の受講	■有 (2017年10月受講) <input type="checkbox"/> 無						
実験実施期間	承認後 ~ 20(21)年 3月 31日			中止・終了等	20()年 月 日			
飼養保管施設 及び実験室	飼養保管施設	承認番号: 2010F004 施設名称: 全学実験動物飼育室			実験室	承認番号: 2010F004 施設名称: 全学実験動物飼育室		
		動物種	系統	性別		匹数	微生物学的品質	入手先(導入機関名)
使用動物 <small>匹数は実験実施期間 全体の数を記入。ただし 教育目的の計画は備考欄 に半年度あたりの匹数を記入。</small>	ウサギ	日本白色	オス	10	Conv.	日本SLC		
研究計画と方法	研究概要 (研究計画と方法について、その概要を記入する。) 近年野生動物肉の食用転嫁が推奨されている。増えすぎた野生動物の駆除とその有効利用を目的とするが、野生動物肉の危害性の検証が十分ではない。食中毒危害性を確認する最も優れた方法は、実験動物を用いての症状誘発試験になる。ウサギの腸管腔内に、野生動物肉の抽出液を投与し、一定時間後の腔内に貯留する液体量を、下痢誘発活性の指標とする。							
	実験方法 (動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。) 本法は下痢誘発性を確認する最も確実な実験方法として、食品衛生分野および細菌学分野で用いられている(腸管ループ法、微生物学実習提要第2版1998年 p98-100、1998、別添1)。 ペントバルビタール(商品名:ソムノペンチル)麻酔下で日本白色ウサギを開腹し、回腸を約3cm、腹腔内から取り出し、長さ1cm間隔で腸管を結紮し、2カ所のループを作製する。ループ状の回腸腔内に、野生シカ肉の抽出物0.1mlを27Gの注射針を用いて注入する。対象として生理食塩水をループ内に注入する。閉腹した後、4~6時間後に、ペントバルビタールの過剰量投与にて安楽殺する。回腸部分を取り出し、ループの長さとし貯留した液体量を測定し、対象と比較、検討のシカ肉抽出物の下痢誘発活性を検証する。 日本白色ウサギは10匹使用する予定で、余剰ウサギは、麻酔、開腹から閉腹に至るまでの作業の習熟に用いる。							
	特殊実験区分 (該当項目をすべて■) <input type="checkbox"/> 1. 感染実験 安全度分類: <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3 <input type="checkbox"/> 2. 遺伝子組換え動物使用実験 区分: <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A <input type="checkbox"/> 3. 放射性同位元素・放射線使用実験							

	<input type="checkbox"/>	4. 化学発癌・重金属実験		<input checked="" type="checkbox"/>	1. 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった。
動物実験の種類 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/>	1. 試験・研究	動物実験を 必要とする理由 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 検討した代替手段の精度が不十分だった。
	<input type="checkbox"/>	2. 教育・訓練		<input type="checkbox"/>	3. その他
	<input type="checkbox"/>	3. その他		<input type="checkbox"/>	

想定される 苦痛の категория (選択項目を■)	<input type="checkbox"/>	A. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。
	<input checked="" type="checkbox"/>	B. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
	<input type="checkbox"/>	C. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
	<input type="checkbox"/>	D. 無麻酔下の脊椎動物に、耐える限界に近い またはそれ以上の痛みを与えようと思われる実験。
動物の苦痛軽減 排除の方法 (該当項目をすべて■)	<input checked="" type="checkbox"/>	1. 短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない。
	<input type="checkbox"/>	2. 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない。
	<input checked="" type="checkbox"/>	3. 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。 (具体的な薬名及びその投与量経路を記入: ペントバルビタール 30 mg/kg 腹腔内投与)
	<input type="checkbox"/>	4. 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する。
	<input type="checkbox"/>	5. その他 (具体的に記入:)
安楽死の方法 (該当項目をすべて■)	<input checked="" type="checkbox"/>	1. 麻酔薬等の使用 (具体的な薬名及びその投与量経路を記入: ペントバルビタール 200 mg/kg の静脈内投与)
	<input type="checkbox"/>	2. 炭酸ガス
	<input type="checkbox"/>	3. 中枢破壊 (具体的に記入:) 法)
	<input type="checkbox"/>	4. 安楽死させない (その理由を記入:)
動物死体の処理方法 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/>	1. 外部業者に依託
	<input type="checkbox"/>	2. その他 (具体的に記入: 例 標本など)
遺伝子組換え実験 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/>	1. 実験計画申請書が承認済み。(承認番号: 201720)
	<input type="checkbox"/>	2. 実験計画申請手続き中又は申請予定。
その他必要または 参考事項	(過去の動物実験計画承認実績、学内の関連委員会への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況などを記入する。) 平成27年度の承認番号A201530の動物実験計画書にて系統の異なるマウスを用いた同様の動物実験を既に承認されている。	

委員会記入欄	審査終了: 20 (18) 年 3 月 13 日	
	修正意見等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法のうち、下から2行目の「回復」を「開腹」に修正する。 ・安楽死の方法欄「3. 中枢破壊」のチェックを外す。 ・実験開始は平成30年4月～ 	
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/>	本実験計画は、岩手大学における動物実験規程等に適合する。 (条件等 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え生物等安全委員会の承認後、実験を開始すること。)
	<input type="checkbox"/>	本実験計画は、岩手大学における動物実験規程等に適合しない。

学長承認欄	承認: 20 (18) 年 3 月 13 日	
	本実験計画を承認します。	
	承認番号: 第	201814 号
	岩手大学長	

計画承認後の2年度以降、毎年4月末までにこのページ(=動物実験実施者名簿)を提出する。また、実験期間内に実験実施者の変更がある場合は、実験責任者、新しい実施者を含む全ての実施者を記載し、このページのみ提出する。

承認番号	201814
------	--------

動物実験実施者名簿(平成30年度分)

(3年計画の1年目)

平成30年2月2日

岩手大学長 殿

下記の動物実験計画について、動物実験実施者名簿を届け出ます。

研究課題		野生動物肉の食中毒危害性解析研究	
実験実施期間		2018年4月1日 から 2021年3月31日	
遺伝子組換え実験の承認番号			
動物実験責任者名 (選択項目を■)	所属部局・職名	農学部・教授	
	フリガナ氏名	テラジマ ジュン 寺嶋 淳	
	連絡先	Tel: 6221 E-mail: terajima@iwate-u.ac.jp	
	教育訓練受講の有無	■有(2017年10月受講) □無	
動物実験実施者名 (選択項目を■)	フリガナ氏名	所属部局・職名・学年	教育訓練受講の有無
	ヤマザキ アキコ 山崎 朗子	農学部・助教	■有(2015年6月受講) □無
	ヒロシマ タツヤ 廣嶋 竜弥	農学部共同獣医学科・6年	■有(2016年10月受講) □無
	ヤマグチ ヨシタカ 山口 佳恭	農学部共同獣医学科・6年	■有(2016年10月受講) □無
	ササキ ユイ 佐々木 優衣	農学部共同獣医学科・5年	■有(2017年10月受講) □無
	タニタ ナツミ 谷田 奈津美	農学部共同獣医学科・5年	■有(2017年10月受講) □無
			□有(年 月受講) □無
			□有(年 月受講) □無
			□有(年 月受講) □無
			□有(年 月受講) □無

計画承認後2年目以降は毎年4月末までに、動物実験実施者名簿を届け出て下さい。
動物実験実施者の変更があった場合も、その都度動物実験実施者名簿を届け出て下さい。
欄の数が足りない場合は、別紙に記入して下さい。